



木もれびの森の虫たち

今年の夏は、昨年よりも厳しい暑さと異常気象による大災害に見舞われました。木もれびの森では、どのような影響があったのか分かりませんが、今のところ台風の被害も殆んどなく安泰であったようです。

木もれびの森では、毎年のことですが、喰うものと喰われるものの戦いの痕跡が数多く見られました。又、たまたま8月に入って間もなくウスバキトンボに出会いました。このトンボは遠く南方から季節風に乗って飛来し、繁殖しますが、成虫の寿命は1か月で、卵は気温が15度以下では孵化できず、冬に死滅し翌年再び南方からやってくるといわれています。水辺の環境の乏しい木もれびの森近辺では集団行動もままならず繁殖も難しいと思いますが、皆さんも森を散策される時注意して観察してみてください。虫ではありませんが水辺の生物といえば、9月13日の活動日に中央緑地のトイレ前の道路を横切って倉庫の裏の森に縦列を組んで入り込んでいく5、6羽のカルガモ一家を見かけました。水辺まで辿り着けるのか心配です。

前号でセミの話をしてきましたが、憐れな現実をご紹介します。8月のある日、木もれびの森ではありませんが圧倒的に羽化する数が多いある森で観察した、羽化途中で力尽き息絶えたセミの姿です。さぞ、無念であったと思います。木もれびの森でも、見えないところで同じような事があるかもしれません。(海野)

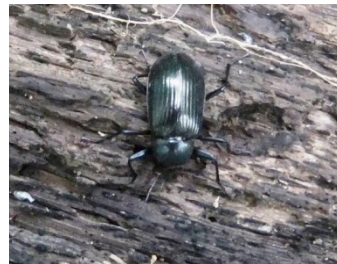
8月～9月撮影 活動地、中央緑地



喰われた残骸



獲物を捕獲



キマワリ



シリアゲムシ



羽化途中で絶命



ウスバキトンボ

用水路沿いの植物

馴染み深く身近な植物であるツユクサ。でも湿り気のある路傍や畑などのあちこちにありながら普段は気づかずに見過ごされている花ではないでしょうか。森では用水路の底や水路脇の草むらでも見ることができますが、その両者の姿は少々異なっています。



草むらでは雑草の最上面に茎と葉を這わせて2cmほどの青色の花を咲かせていますが、水路底では地面に低く貼り付くようにして貧弱な花をつけています。

ツククサは茎の節の付け根から根を出して次々と分岐して根をはり勢力を広げてゆきます。その先に草むらなどがあると茎は蔓のように立ち上がります。この繁殖方法のため水田で蔓延る同じ仲間のイボクサと同様に、畑では強害草として嫌われています。ツククサの花は鮮やかで澄んだ青色ですが、まとまって咲いた群落は少ないのであまり目立ちません。二つに折れた苞の間から青色の花弁2枚と白色の花弁1枚の花を咲かせ、その後ろに控えた蕾が順繰りに開花します。きれいな花なのに蜜線がありませんから虫による受粉の機会は少ないのでしょう。開花せずに自家受粉もします。(岩田)

身近なツククサの仲間:トキワツククサ/イボクサ/ヤブミョウガ/ムラサキツククサなど



こもれびの森の樹木(34)

秋の森、一番のおすすめはコウヤボウキね、と思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。東生して立ち上がり、大きく弧を描いて細い枝の先端は地につきそうです。今年伸びた枝(本年枝)の先端には淡いピンク色の頭花が1つついています。秋風に身を任せて、よじるようにいざなう姿は優雅です。

頭花は13個ほどの小さな花(筒状花)の集まりです。このような花の姿はキク科の特徴です。筒状花の花冠は5裂し、リボンのように巻いています。中央に突き出た雌しべとリボンのような花冠とが13個ほども集まって花火のような美しさを作っているのですね。去年伸びた枝(前年枝)の先端は地について、そこから根を出して親と同じ遺伝子を持つ新しい株を作ります。一方、花は受精して冠毛を持った果実を作り、やがて風に乗って旅立ちます。新天地で親と異なる遺伝子を持った新しい株を作ります。本年枝につく葉は互生しますが、前年枝では節ごとに数枚の葉が束生します。

細い枯れ枝を束ねた高野箒の話は有名ですね。正倉院に子日目利箒(ネノヒノメギホウキ)として保存されているそうです。(鳥飼)

